

# 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時 令和5年9月12日（火）

場 所 被服室

対 象 3年2組 26名

指導者 湯沢市立湯沢南中学校 市田 浩子

## 1 題材名 「共に育つ・共に生きる」

～家庭や地域の中で、共によりよく生きるためにできることは何だろうか～

## 2 題材の目標

- (1) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があること、介護など高齢者との関わり方について理解する。 【知識及び技能】
- (2) 高齢者など地域の人々との関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

## 3 生徒と題材

### (1) 題材について

近年、少子高齢社会の急速な進行、家族形態の変化など、家庭・地域を取り巻く環境が変化してきており、家庭生活や地域との関わり方に対する価値観も多様化している。これからの少子高齢社会において、家庭や地域社会の中で、よりよく関わることや人とのつながりを大切にしながら生きる力を育んでいくことが重要であると考えている。

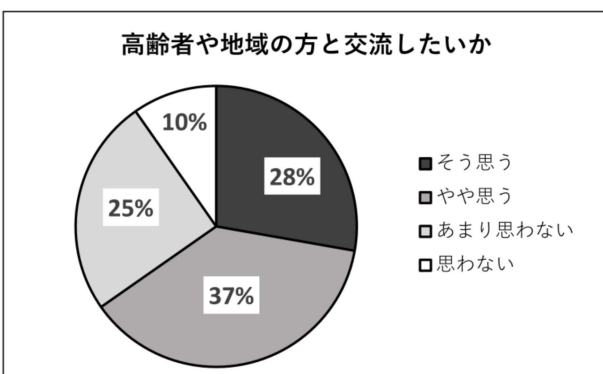
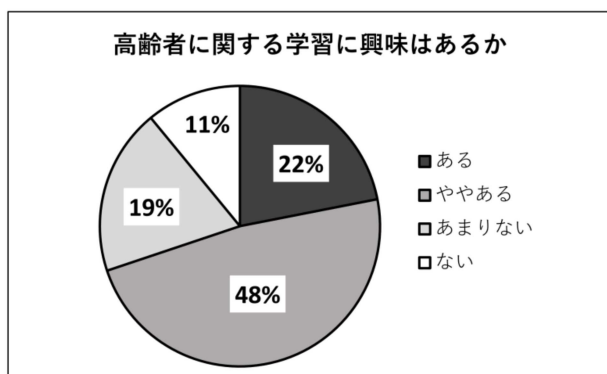
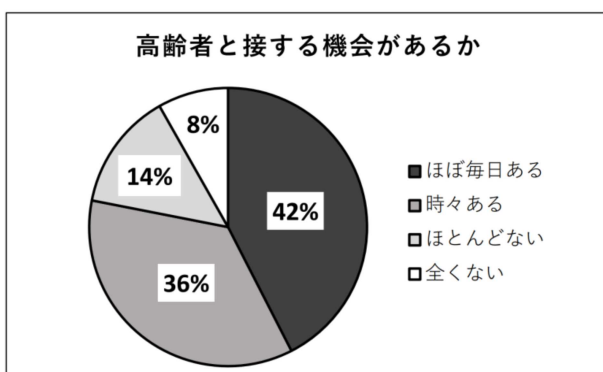
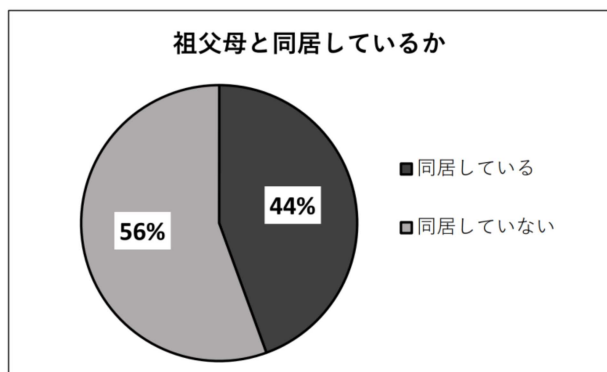
学習指導要領の改訂では、少子高齢社会の進展に対応して、幼児と触れ合う活動などを一層充実するとともに、高齢者など、地域の人々と協働することについての内容が新設された。本題材を通じて、生徒の生活を支えている地域との連携を図ったり、そこで生活する人々と関わる活動を充実させたりすることで、生徒自身が地域社会を支える一員であることを自覚できるようにする。自分たちとは異なる高齢者の視力や聴力、筋力の低下など身体の特徴が分かり、それらを踏まえて関わることの大切さを理解することによって、実際に地域で関わりをもとうとしたときに、高齢者の立場に立って考え行動できるようになると考える。

また、中学校3年間の家庭分野での学びの集大成として、これまで支えてきてくれた周囲の人々との関係を振り返り、今の自分にできることは何かを考え感謝の気持ちを行動に起こすことができる時期である。生徒が各自の生活体験も踏まえながら、授業中での意見交換を通じて、中学生の自分が、地域の一員としてどのようにすれば、高齢者などの地域の人々とよりよく関わり協働することができるかについて総合的な視点から問題点に気づき、課題を設定し、解決策を考える活動は、今後のよりよい生活の実現にもつながるものであると考える。

### (2) 生徒について

男子12名、女子14名、計26名の学級である。元気で明るい生徒が多く、授業や諸活動に意欲的に取り組んでいる。特定の仲間との関わりだけでなく幅広く交流しようとする姿が見られる。家庭分野の授業では、グループで多様な意見を出し合いながら、仲間の考えを参考にして、課題を解決しようとしている。

3年生を対象に実施した事前アンケートでは、「高齢者と交流する機会」が「ほぼ毎日ある」あるいは「時々ある」と答えた生徒は78%である。「高齢者と同居している生徒」が44%と半数を切っていることを考えると、比較的身近に生徒と接することができる高齢者の方がいることがうかがえる。また、「高齢者に関する学習」に「興味がある・ややある」と答えた生徒は70%、「高齢者や地域の方の人々と交流したい」と考えている生徒は「そう思う・やや思う」を合わせると65%である。このことから、約3割の生徒は、高齢者に関する学習や交流への興味・関心が低い傾向が見られた。



### (3) 指導について

祖父母と同居している生徒以外は、実際に高齢者と関わる場面が少なく、話掛けにくい、聞き取りにくい等のコミュニケーションへの不安も加わり、関わる場面を具体的に想定できていないことが考えられる。そこで、新聞記事や高齢者へのインタビュー等から、生き生きと活動している高齢者の方の様子を見たり聞いたりする活動や、視力や聴力、筋力の低下など高齢者の身体の特徴を踏まえた関わり方を理解できるように、専門的な方のアドバイスの基、介護の基礎に関する体験的な活動や高齢者疑似体験を行う。生徒が、高齢者などの地域の人々と協働する必要があることを気づき、「生活の営みに係わる見方・考え方」を働かせて高齢者の方との関わり方を考えることができるようにしたい。

本題材では、地域の人々とよりよく関わり協働する方法について考えるに当たって、市社会福祉協議会の方々と連携し、専門的な立場から助言をいただくことで、地域の実態・ニーズに合った実践や、地域社会に参画し貢献する態度の育成につながるようにする。題材全体を通して、結果の考察を深めたり、グループでの意見交流を広げたりする活動をより効果的に行うためにICTを活用する。

本時では、自分の生活や自分と地域との関わりについて見つめ、問題を見だし、課題を設定する段階において他者からの意見やアドバイスを基に自分の課題を再考することでよりよい実践につなげることをねらいとしている。

振り返りでは、普段の授業でも用いているスプレッドシートを活用する。このシートは、達成度等がグラフ化され、文章記述からも生徒が自分の変容や学習の足跡をいつでも確認できるようになって

いる。また、教師も生徒のねらいの達成度を把握できるので、教師の指導改善にもつなげることができる。

#### 4 県研究主題との関連

本時は、秋田県の「問題解決的な学習の充実」のための4つの段階と3つのSTEPのうち、①のSTEP3に該当する。

「問題解決的な学習の充実」のための4つの段階と3つのSTEP	
①問題の発見や課題の設定の段階	
STEP 1	問題の発見
STEP 2	問題の分析
STEP 3	課題の設定
②解決策や解決方法の検討及び具体化の段階	
③課題解決に向けた実践の段階	
④実践の評価・改善及び表現の段階	

本時で地域や高齢者の方々と協力・協働する方法について個人の課題を設定するために、前時までに問題を見いだすことを充実させたいと考えた。

前時までに、社会福祉士から高齢者の身体の特徴についての話や介助の仕方についてのアドバイスを聞く活動を設定し、生徒に気付きを与えたい。また、個人で気付いたことを持ち寄り、グループで「問題発見シート」を作成することによって、生徒一人一人が問題を見いだせるようにする。

本時では、生徒の思考を広げ、課題（個人テーマ）の設定につなげるために、思考ツールを活用し、他の考え（生徒同士、社会福祉士等）に触れる機会を設定する。他の考えに触れたり助言を受けたりすることで、課題がより明確になり、課題（個人テーマ）の再検討がしやすくなると考える。

これらの手立てにより、問題解決的な学習が充実すると考えた。

#### 5 題材の評価計画

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解している。	高齢者など地域の人々との関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

6 指導と評価の計画

時間 指導事項	○ねらい ・学習活動	○：評価規準 ◇：評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 A(3) ア(イ)	<p>○家庭生活は地域と相互の関わりで成り立っていることを理解することができる。</p> <p>・事前アンケートを基に、自分たちが感じている高齢者のイメージを共有する。</p> <p>・「予想される湯沢市の人口推移」から、少子高齢化社会の現状を知り、家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることを考える。</p> <p>・地域や高齢者とのよりよい関わり方を考える学習をする上での、興味・関心、疑問点をまとめる。</p>	<p>○家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。</p> <p>◇ワークシート、ICT</p>		<p>○家族や高齢者など地域の人々との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>◇ワークシート、ICT 振り返りシート（ICT）、観察等</p>
2 3 A(3) ア(イ)	<p>○高齢者など地域の人々と協働する必要があることや、介護など高齢者との関わり方について理解することができる。</p> <p>・地域で活躍している方のインタビューの様子や、新聞記事等を通して、高齢者の日常の過ごし方について調べる。</p>	<p>○高齢者など地域の人々と協働する必要があることや、地域で共に生活していくために必要なこと、介護など高齢者との関わり方について理解している。</p> <p>◇ワークシート、ICT、観察等</p>		<p>○家族や高齢者など地域の人々と</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な活動を通して、高齢者の身体の特徴や介助の方法についてまとめる。</li> </ul>			<p>の関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。。</p> <p>◇ワークシート、ICT 振り返りシート（ICT）、観察等</p>
4 5 6 本時 A(3) イ	<p>○高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、課題をもって「高齢者など地域の人々との関わりについて」の実践計画を工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者と共に生活していくための問題点を見だし、何が必要かを考え、話し合う。</li> <li>・前時の学習を基に、高齢者と協働できる場面を想定し、関わり方について考え、課題を設定する。</li> <li>・他者の意見や新たな情報により、実践計画を検討する。</li> </ul>		<p>○高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだし課題を設定している。</p> <p>◇ワークシート、ICT</p> <p>○高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について計画を考え、工夫している。</p> <p>◇ワークシート、ICT 観察等</p>	
地域での実践又は他教科等との連携を図った実践				
7 A(3) イ	<p>○高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について、実践を評価したり、改善したりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践報告書を記入する</li> <li>・グループごとに発表し、評価したり、</li> </ul>		<p>○高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <p>◇ワークシート、ICT</p> <p>○家族や地域の人々との関わりについて課題解決に向けた</p>	<p>○家族や高齢者など地域の人々との関わりについて工夫し創造し、実践しようとしている。</p> <p>◇ワークシート、ICT、 振り返りシート（ICT）、観察等</p>

<p>改善したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践発表や意見交換を通じて、「よりよく関わり協働すること」について、自分の実践を見直して改善策を工夫したり、新たな課題を見付けたりする。</li> </ul>		<p>一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。</p> <p>◇ワークシート、ICT、観察等</p>	
--	--	--	--

7 本時の指導計画（本時 5 / 7）

(1) ねらい

- 高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について、他者の意見を参考に課題（個人テーマ）を設定することができる。

(2) 展開

学習活動	学習形態	指導上の留意点	評価
<p>1 本時の流れとめあてを確認する。</p>	<p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の活動を振り返るとともに、本時の活動の見通しをもつことができるよう、流れを確認する。</li> </ul>	
<p>ー共によりよく生きるためにはー 意見交換を通して、 「高齢者など地域の人々との関わりについて」の課題を設定しよう</p>			
<p>2 前時の学習を基に、課題（個人テーマ）を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者のことがよく理解できていない。どうしたら理解し合うことができるだろう。</li> <li>今はできていないけれど、高齢者と交流することは大切だと思うから、共に楽しむためにできることを考えたい。</li> </ul>	<p>個人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題（個人テーマ）、課題設定の理由を考える際、前時までの学習を参考に促す。</li> <li>思考ツールを活用し、整理しながら取り組めるようにする。</li> </ul>	
<p>3 グループで、自分が考えた課題（個人テーマ）を発表する。</p>	<p>グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視点を確認した上で、自分の考えを発表し、意見交換を行うことで、課題（個人テーマ）や課題設定の理由をより明確</li> </ul>	

<p>発表する側の視点 ○課題設定の理由（自分の気付き） ○困っていること、迷っていること等</p> <p>聞く側の視点 ○参考になった点や質問 ○共に（一緒に）関われるか</p>		<p>に意識できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表や質問をするときは、前時までの学習内容や生活体験を根拠にして話すよう促す。</li> </ul>	
<p>4 意見交換で交流した考えを基に課題（個人テーマ）を見直し、検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こういう見方もあるのか。</li> <li>・自分の活動がイメージできると課題が考えやすい。</li> <li>・この課題だとどんな関わりができるだろう。ゲストティーチャーに相談してみよう。</li> </ul>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの仲間のアドバイスや、前時で同じような問題点を考えた仲間の意見も参考にするよう促す。</li> <li>・地域の要望や高齢者の思いに気付かせるために、社会福祉士からのアドバイスも参考にするように促し、課題（個人テーマ）を改善するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について他者の意見を参考に課題（個人テーマ）を設定している。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p>
<p>5 検討した内容についての発表を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが高齢者のためにしてあげるだけでなく、一緒に行動するという視点で考え直した。</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題（個人テーマ）の再検討につながるよう、数名が発表する場を設ける。</li> </ul>	
<p>6 次時の活動を確認し、振り返りをする。</p>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて課題（個人テーマ）を再検討し、時宜に計画を立てて、実践するなど、今後の流れを確認する。</li> <li>・本時のねらいの達成状況を見取るために、視点を示して振り返ることを確認する。</li> </ul>	